

ビワ‘福原早生’の果実内部腐敗の薬剤防除法

[要約] ビワ‘福原早生’の果実内部腐敗は、袋かけ前の落弁期にトップジンM水和剤 1,000倍を散布することによって防除できる。

長崎県果樹試験場・病害虫科	専 門	作物病害	対 象	果 樹 類	分 類	指 導
---------------	-----	------	-----	-------	-----	-----

平成7年度長崎県果樹試験場業務報告

[背景・ねらい]

施設栽培の増加に伴い、果実腐敗の発生が問題となっているが、特に‘福原早生’で果実内部から腐敗するものが多いので、薬剤による防除法を明らかにした。

[成果の内容・特徴]

- ①各種薬剤の検討では、現地試験及び場内試験ともトップジンM水和剤の防除効果が高かった。
- ②散布時期別の検討では、1月中～下旬の袋かけ前に散布したものが防除効果が高かった。しかし、散布回数別の防除効果は判然としなかった。
- ③以上のことから、現在ビワに農薬登録のあるトップジンM水和剤を、袋かけ前の落弁期に散布することによって防除できる。

[成果の活用面・留意点]

- ①灰色かび病との同時防除ができる。
- ②ビワは早花から遅花まで約2か月を要するため、防除適期の判断が難しい。

[具体的データ]

表1 ‘福原早生’果実内部腐敗に対する各種薬剤の防除効果（三和町川原地区 農家圃場）

供試薬剤 試験区	収穫 果数 (果)	貯蔵日数と発病果数(果)				切開後の 発病果数 (果)	発病果計 合(果)	発病果率 (%)
		1日後	3日後	5日後	7日後			
トップジンM水和剤 1,000倍								
(1)袋かけ前 1回散布	21	1	0	1	0	0	2	9.5
(2)袋かけ前後 2回散布	20	0	0	0	0	1	1	5.0
(3)袋かけ後 1回散布	21	0	1	0	3	0	4	19.1
ラー水和剤 2,000倍								
(1)袋かけ前 1回散布	21	0	0	0	0	1	1	4.8
(2)袋かけ前後 2回散布	21	0	0	1	0	1	2	9.5
(3)袋かけ後 1回散布	23	1	1	1	2	3	8	34.8
ベルクート水和剤 1,000倍								
(1)袋かけ前 1回散布	23	0	1	2	0	5	7	30.4
(2)袋かけ前後 2回散布	19	0	0	0	1	1	2	10.5
(3)袋かけ後 1回散布	21	0	0	0	0	4	4	19.1
無処理	51	1	0	1	0	9	11	21.6

散布時期： 1月18日， 2月16日 袋かけ： 2月14日

表2 ‘福原早生’果実内部腐敗に対する各種薬剤の防除効果（果樹試験場 ガラス室）

供試薬剤 試験区	収穫 果数 (果)	貯蔵日数と発病果数(果)				切開後の 発病果数 (果)	発病果計 合(果)	発病果率 (%)
		1日後	3日後	5日後	7日後			
トップジンM水和剤 1,000倍								
(1)袋かけ前 1回散布	23	0	0	0	0	0	0	0.0
(2)袋かけ前後 2回散布	20	0	0	1	0	0	1	5.0
(3)袋かけ後 1回散布	12	0	0	0	1	0	1	8.3
ラー水和剤 2,000倍								
(1)袋かけ前 1回散布	7	0	0	0	0	1	1	14.3
(2)袋かけ前後 2回散布	5	0	0	3	0	0	3	60.0
(3)袋かけ後 1回散布	12	0	0	0	0	0	0	0.0
ベルクート水和剤 1,000倍								
(1)袋かけ前 1回散布	19	0	0	0	0	0	0	0.0
(2)袋かけ前後 2回散布	8	0	0	0	0	0	0	0.0
(3)袋かけ後 1回散布	19	0	0	2	0	0	2	10.5
無処理	11	0	1	0	0	0	1	9.1

散布時期： 1月30日， 3月 3日 袋かけ： 3月 1日

[その他]

研究課題名：施設病害虫の効率的防除法の確立

予算区分：県単

研究期間：平成 7年度（平成 6～ 8年）

研究担当者：古賀敬一、大久保宣雄

既発表論文等：平成7年度 長崎県果樹試験場業務報告

残された問題点：灰色かび病と同時防除できる薬剤の選抜が必要である。